

# 〔精神科神経科〕

## 研修の特徴と内容

### 【特徴】

本プログラムでは、外来における予診、陪席および診療、病棟における診療、症例検討会、身体科からの依頼による診療などを通して、臨床医として最低限必要な精神医学の基本的な態度、知識、技能を身につけることを優先している。診療対象となる主な精神症状は、不安、抑うつ、不眠、意識障害（せん妄を含む）、精神疾患としては症状性・器質性精神病、認知症疾患、アルコール依存、気分障害（うつ病、躁うつ病を含む）、統合失調症、不安障害、身体表現性障害、ストレス関連障害である。閉鎖病棟を有し主に急性期のさまざまな疾患が体験できる。一般精神医療の他に、精神科救急医療、身体科と連携したコンサルテーション・リエゾン精神医療も体験できる。

### 【内容】

#### ① 一般目標（G I O）

精神保健や医療を必要とする患者とその家族に対して全人的に対応するために、身体科においても診療する機会の多い精神疾患や病態を理解し、初期対応のための精神症状の診断と治療技術を学び、専門医による診察を適切な時期に依頼できる能力を習得する。

#### ② 行動目標（S B O）

1. 精神保健福祉法を理解し患者やその家族の人権に配慮した診察ができる。
2. 基本的な精神医学的面接ができ、精神症状を把握し、重要症状を抽出することができる。
3. 病歴、現症、補助検査を総合して精神疾患の診断ができる。
4. インフォームドコンセントについて理解し、精神症状に対する初期症状としての薬物療法、患者やその家族への適切な指示、指導ができる。
5. 身体科の日常診療で遭遇する機会の多い精神症状、状態像について理解する。
6. 身体科に適切な時期に診察を依頼することができる。
7. 総合的な治療計画へ参画し関係機関と連携をはかることができる。

#### ③ 研修内容（L S）

##### L S 1：外来研修

1. 初診患者の予診をとり、指導医による本診察に陪席する。
2. 指導医、上級医の再診患者の診察に陪席する。
3. 身体科からの診察依頼のあった患者に対する指導医、上級医の診察に陪席する。
4. 指導医による精神科救急患者への対応と診察に陪席する。

##### L S 2：病棟研修

1. 指導医と上級医の指導のもと診療に参加する。
2. 入院時、問題点を列挙し初期計画と予後を想定した治療計画を診療録に記載する。
3. 月曜から金曜（第1、3週は土曜を含む）は毎日診察を行ない診療録に記載すると共に、指導医、上級医の指導のもとに処置を行なう。
4. 患者の入退院に際して、その症例のサマリーを作成し、症例検討会・医局会に提示して討議する。
5. 週1回、患者の治療経過サマリーを診療録に記載し、治療方針について指導医、上級医とともに検討する。

6. 指導医、上級医とともに退院後の治療計画について検討し診療録に記載する。

LS3：研修講義、抄読会、教授回診、症例検討会・医局会

1. 研修講義：指導医によるテーマ別の講義に参加する。
2. 教授回診：治療方針について教授とともに検討する。
3. 症例検討会・医局会：入退院患者の症例提示と診断、治療方針について検討する。

④ 教育に関する行事

1. 研修講義：カンファレンス室にて月曜日から金曜日の午後
2. 教授回診：病棟にて毎週水曜午後
3. 症例検討会・医局会：カンファレンス室にて毎週水曜午後

⑤ 研修評価

1. 自己評価  
EPOCを入力する。
2. 指導医による評価  
EPOCへの入力状況、上級医による評価を総合して評価を行う。

## 指導医等

主任教授：松永 寿人  
講師：清野 仁美  
助教：前林 憲誠

教授：湖海 正尋  
講師：山田 恒  
助教：吉村 知穂

講師：林田 和久  
助教：宇和 典子  
助教：西井 理恵

## 研修実施責任者

講師：清野 仁美